

(2012年度)

2 世界史問題 (60分)

(この問題冊子は22ページ，4問である。)

受験についての注意

1. 監督の指示があるまで，問題冊子を開いてはならない。
2. 携帯電話・PHSの電源は切ること。
3. 試験開始前に，監督から指示があったら，解答用紙の右上の番号が自分の受験番号かどうかを確認し，氏名を記入すること。次に，解答用紙の右側のミシン目にそって，きれいに折り曲げてから，受験番号と氏名が書かれた切片を切り離し，机の上に置くこと。
4. 監督から試験開始の合図があったら，この問題冊子が，上に記したページ数どおりそろっているかどうか確かめること。
5. 解答は解答用紙の各問の選択肢の中から正解と思うものを選んで，そのマーク欄をぬりつぶすこと。その他の部分には何も書いてはならない。
6. 筆記具は，HかFかHBの黒鉛筆またはシャープペンシルに限る。万年筆・ボールペンなどを使用してはならない。時計に組み込まれたアラーム機能，計算機能，辞書機能などを使用してはならない。
7. マークをするとき，枠からはみ出したり，枠のなかに白い部分を残したり，文字や番号，枠などに○や×をつけたりしてはならない。
8. 訂正する場合は，消しゴムでていねいに消すこと。消しきずはきれいに取り除くこと。
9. 解答用紙を折り曲げたり，破ったりしてはならない。採点が不可能になる。
10. 試験時間中に退場してはならない。
11. 解答用紙を持ち帰ってはならない。
12. 問題冊子は必ず持ち帰ること。

1 次の文章を読み、後の問(1～9)に答えなさい。解答は選択肢(a～e)の中からもっとも適するものを1つ選びなさい。

イスラームが多数派のスナ派(スンニー派)と少数派⁽¹⁾のシーア派に分かれることはよく知られている。

スナ派とシーア派とが分離した理由は、(1)年の預言者ムハンマドの死後の後継者決定過程にあった。多くの者はムハンマドが後継者について遺言を残さなかったとして、長老たちの選挙によって後継者を決めることとし、こうして(2)が後継者に選出された。これに対し、ムハンマドは従弟で娘婿のアリー⁽²⁾を後継者とするという遺言を残したと主張する少数の者たちがあった。前者がスナ派、後者がシーア派へとつながっていくことになったのである。

イスラームの初期からスナ派は圧倒的な多数を占めており、少数派であるシーア派を追害したり弾圧したりした。特にその傾向は、661年に(3)地方を中心に成立したウマイヤ朝に顕著に見られた。そのため、同朝に不満を持ったシーア派の人々は反政府運動を起こし、(4)年のアッバース朝成立に貢献したが、アッバース朝も成立するとシーア派に対しては厳しい姿勢で臨むことになった。このため、シーア派の中にはアッバース朝に対して武力蜂起する者まで現れた。

アリーとその一族を最高指導者と認めるシーア派は、アリー一族が時代とともに増えていくと、どの系統を最高指導者として認めるかによって、いくつかの分派に分かれていった。アッバース朝などに武力蜂起をするなどした過激シーア派には(5)派などが含まれ、穏健派であった(6)派などとは分かれていった。

シーア派の政権は数的には少ないが、重要な役割を果たしたものが少なくない。10世紀の初めに(7)で起こったファーティマ朝は(5)派を信奉しており、969年以降エジプト・シリアに進出し、新たな都としてカイロ⁽³⁾を建設した。そして、東方のアッバース朝や西方の後ウマイヤ朝と対立を繰り返すとともに、自らの宗派の布教に努めた。同じ10世紀の前半に成立したイラン系のブワイフ朝は(6)派を信奉しており、946年にはバグダードに入り、アッバース朝の君

主から(8)に任命されてイスラーム法を施行する権限を与えられたため、アッバース朝は名目的な存在となった。しかし、ブワイフ朝は11世紀半ばにセルジューク朝に滅ぼされた。^(二)

それほどよく知られた王朝ではないが、14世紀中期、(9)が崩壊した後に、イランの南部に興った同じイラン系のムザッファル朝(1357~1387)があった。地元のイラン人による短期の政権ではあったが、イラン文化の繁栄に貢献したといわれている。

シーア派の政権でもっとも有名なのはサファヴィー朝であろう。元々13世紀末に成立したイスラーム神秘主義教団のサファヴィー教団がやがて軍事化し、周辺のトルコ系遊牧民を勧誘して(10)という軍隊を作り上げて、王朝を築き上げた。1501年、(11)で王朝が成立すると、国王イスマーイール1世は(6)派を国教と宣言した。これをきっかけにイランは今日のようにシーア派国家へとなっていくことになった。しかし、国教宣言によって、サファヴィー朝治下のイランが直ちにシーア派化したわけではなかった。国教宣言直後、シーア派への改宗を嫌った者の中には北インドや、中央アジアの(12)に逃走する者も少なくなかったという。イランが現状のようにシーア派化するまでには、200年かそれ以上の年月が必要だったという。

成立直後のサファヴィー朝においては、国内的には(10)が特権階級を形成して内紛を繰り返し、対外的には北東方の中央アジアの勢力や西方のオスマン帝国との国境争いに追われ、いつ滅亡してもおかしくない状態であった。そうした中で、16世紀の後半に登場したのがアッバース1世であった。彼は軍制を改革して国内の内紛を収め、外敵の侵入を排除して、安定した国家を作り上げた。そして、イスファハーンに遷都して繁栄を極めた。さらに、16世紀初めに(13)に占領されていたペルシア湾入り口付近のホルムズ島を1622年には奪回し、ペルシア湾交易が盛んに行われるようになった。^(三)

それに前後して、オスマン帝国にはスレイマン1世、北インドのムガル帝国にはアクバルが登場し、それぞれの国家で繁栄期を築き上げた。政治的にも安定したので、サファヴィー朝を中心とする、オスマン帝国からムガル帝国にかけての地域は通商が盛んに行われるようになり、経済的にも繁栄するようになった。し

かし、このような繁栄も、1722年に(14)人が首都イスファハーンを陥落させて、サファヴィー朝が事実上滅亡したことによって終焉を迎えることとなった。

問1 空欄(1~14)に入るのもっともふさわしいものを選びなさい。

- (1) a 610 b 622 c 630 d 632 e 641
- (2) a アブー=ターリブ b アブー=バクル
c アル=アッバース d ウスマーン e ウマル
- (3) a イラク b エジプト c シリア d ペルシア
e マグリブ
- (4) a 747 b 750 c 755 d 762 e 769
- (5) a イスマーイール b 十二イマーム c ドルーズ
d ハワーリジュ e ワッハーブ
- (6) a イスマーイール b 十二イマーム c ドルーズ
d ハワーリジュ e ワッハーブ
- (7) a イラク b 西サハラ c チュニジア d ペルシア
e モロッコ
- (8) a カリフ b スルタン c シャー d 大アミール
e ワズイール
- (9) a アッバース朝 b イル=ハン国 c ティムール帝国
d ホラズム=シャー朝 e ルーム=セルジューク朝
- (10) a イェニチェリ b キジルバシュ c シパーヒー
d デウシルメ e マムルーク
- (11) a カズヴィーン b サマルカンド c スルターニヤ
d タブリーズ e ヘラート
- (12) a アストラハン=ハン国 b クリム=ハン国
c コーカンド=ハン国 d シャイバニ朝
e ヒヴァ=ハン国
- (13) a イギリス b オランダ c スペイン d フランス
e ポルトガル

- (14) a アフガン b アラブ c クルド d トルコ
e モンゴル

問2 下線部(i)について、現在シーア派教徒が全イスラーム教徒に占めるパーセンテージはおおよそどのくらいとされているか。

- a 5%程度 b 10%程度 c 15%程度 d 20%程度
e 25%程度

問3 下線部(ii)のアリーを殺害したのはどれに属する者か。

- a キリスト教 b スンナ派 c ハワーリジュ派
d ユダヤ教 e ワッハーブ派

問4 下線部(iii)のカイロ近郊のミスル(軍営都市)はどこか。

- a カイラワーン b クーファ c ダマスクス
d バスラ e フスタート

問5 下線部(iv)のセルジューク朝について、次の設問(1)～(3)に答えなさい。

(1) 学芸振興などに努めた同朝のイラン系宰相で、過激なシーア派の一派に殺害されたのは誰か。

- a アルプ＝アルスラーン b サラーフ＝アッディーン
c トゥグリル＝ベク d ニザーム＝アルムルク
e マリク＝シャー

(2) 上記の宰相が執筆した著作は何か。

- a 『幸福への知恵』 b 『集史』 c 『世界史序説』
d 『三大陸周遊記』 e 『統治の書』

(3) セルジューク朝がビザンツ軍を破った戦いで、同朝の小アジア征服の始まりとなったのはどれか。

- a アンカラの戦い
- b コソヴォの戦い
- c タラス河畔の戦い
- d トウル・ポワティエ間の戦い
- e マンジケルトの戦い

問6 下線部(ホ)のアッパース1世がオスマン帝国から奪回した地方は、イラクの一部以外にどこか。

- a アゼルバイジャン
- b アドリアノーブル
- c ファールス
- d ブルサ
- e ホラーサーン

問7 下線部(ヘ)のイスファハーンについて、この都市にある著名な建造物は次のうちどれか。

- a アズハル学院
- b アルハンブラ宮殿
- c イマームのモスク
- d スレイマン=モスク
- e トプカプ宮殿

問8 下線部(ト)のスレイマン1世について、次の設問(1)、(2)に答えなさい。

(1) オスマン帝国の最盛期を築いた彼は何と呼ばれたか。

- a カーディー
- b カーヌーニー
- c シナン
- d テイマール
- e バーキー

(2) 彼と関係の深い戦争は次のうちどれか。

- a チャルディランの戦い
- b ニコポリスの戦い
- c パーニーパットの戦い
- d プレヴェゼ海戦
- e レパントの海戦

問9 下線部(チ)のアクバルの業績ではないのは、次のうちどれか。

- a アグラを首都に定めた。
- b ヒンドゥー教徒との和解に努めて、ジズヤを廃止した。
- c マンサブダール制という位階制度を定めた。
- d ラージプート諸王国を征服した。
- e 土地測量や貨幣統一などにより、財政を確立した。

2 次の文章(A～D)は中国史に関する事項について説明したものである。それぞれの間に答えなさい。解答は選択肢(a～d)から1つ選びなさい。正解がない場合はeをマークしなさい。

A

古来の神仙思想、陰陽五行説、老荘思想、易・呪術・占トなどに、さまざまな民間信仰が融合し、後漢末あたりから宗教的色彩を帯び始める。後漢末の太平道⁽¹⁾、五斗米道はその初期の宗教結社とされるが、呪術や祈禱で病を治すと称し、⁽²⁾多数の信徒を集めたとされ、この宗教の源流に数えられる。太平道は後漢滅亡の遠因⁽³⁾となった農民反乱に関係したことで知られ、後者は教祖が自身を天師と称したことから天師道とも呼ばれ、陝西省・四川省方面一帯に一種の宗教王国を築いたことで知られる。ついで魏・晋時期に老荘思想が流行すると、その影響も受けたとされる。⁽⁴⁾また、4世紀中ごろ以降、西域を経由して仏教が中国、⁽⁵⁾ことに華北に広まり、国家の庇護を受けるようになると、その刺激を受けて、急速に宗教教団の色合いを強めて行った。(6)が開いたとされる新天師道がそれである。北魏第3代皇帝(7)は、それを国教とし、厳しい廃仏政策を行った。

問1 下線部(1)の結社の創立者は誰か。

- a 張儀 b 張陵 c 張角 d 張騫

問2 下線部(2)の結社の創立者は誰か。

- a 張儀 b 張陵 c 張角 d 張騫

問3 下線部(3)の反乱が起こった時期はいつか。

- a 前3世紀末 b 前2世紀中頃 c 2世紀後半
d 4世紀前半

問4 下線部(4)に関連する説明のうち、誤りを含むものを選びなさい。

- a 政治・世俗のことを超越した清談が流行した。
b 阮籍は竹林の七賢の一人とされる。
c 『桃花源記』の作者は竹林の七賢の一人である。
d 後漢末の混乱から、儒教の権威が失墜したことも一因である。

問5 下線部(5)に関し、インド人の父を持つ僧で、長安等の地で仏典の翻訳につとめたことで知られる人物は誰か。

- a 法顯 b 玄奘 c 仏図澄 d 達磨

問6 空欄(6)に入る人物は誰か。

- a 郭守敬 b 寇謙之 c 道安 d 慧遠

問7 空欄(7)に入る人物は誰か。

- a 太武帝 b 孝文帝 c 武宗 d 世宗

問8 文章Aの説明に該当する宗教の名前は何か。

- a 回教 b 道教 c 儒教 d 祆教

B

完本として現存する中国最古の農書。全10巻、92編からなるとされる。その内容⁽¹⁾としては、穀物・野菜・果樹などの栽培、畜産、養蚕、染料、酒・味噌などの

醸造，食品の調理，調味料，加工・保存などに至るまで，広範囲にわたって網羅されている。その書は北魏の頃，(3)が編纂・叙述したとされるが，その中には，それ以前に普及し，その時にはすでに散逸した類似の農書が多数引用され，その時期までの農業技術の集大成となっている。また，それは(4)農法について，体系的な叙述がなされているとして，高い評価が与えられている。

問1 文章B全体から，下線部(1)に該当する農書名を選びなさい。

- a 『農政全書』 b 『水経注』 c 『本草綱目』
d 『齊民要術』

問2 下線部(2)の王朝の建国者は誰か。

- a 楊堅 b 拓跋珪 c 宇文泰 d 高歡

問3 空欄(3)に入る人物は誰か。

- a 徐光啓 b 酈道元 c 賈思勰 d 李時珍

問4 空欄(4)に入る語句は何か。

- a 焼畑 b 華北乾地 c 困田 d 水田稲作

C

清代雍正帝の時期に全国的に実施されるようになる税制度。中国の税制の基本(1)をなすのは，土地にかかる地税と成人男子にかかる丁税の二本立てであった。唐代初期には，よく知られているように，農家の成人男子を意味する丁男に対し，租と呼ばれる一定額の地税と一定額の労役，すなわち人頭税を意味する庸が別々に課せられた。地税・丁税からなる税制の基本は，いわゆる均田制が崩れ，農民(2)に対し，現住地での土地資産に対応する課税が為され，夏と秋の2回徴税となつても持続したと考えられる。明代に入り，社会経済が成熟し，社会的階層分化が進行する一方，ポルトガル，スペインなどの来往を皮切りとした対外貿易の盛況(3)などを受け，税制には大きな変化が生じ始める。その一例が税の銀納化の進展で

あるが、その当初は地稅・丁稅二本立ての基本は変わってはいない。しかし、その間に大土地所有制の進展は止まるところを知らず、土地を所有しない無産の農民が増加するにつれて、康熙帝の末年には、全国の丁数を確定して丁銀額を割り出し、ついで雍正期には、省や県の地稅総額を押さえた上で地銀1両につき丁銀若干を付加して徴収するようになって行った。それは地丁併徴とも呼ばれるが、地稅に人頭稅の丁銀が繰り込まれて一本化した形で徴収されることを意味した。農村社会における社会格差の進展が稅体系の根本的变化を招来したのである。

問1 下線部(1)の皇帝の時期に該当しないものを次から選びなさい。

- a 軍機処の設置
- b キリスト教布教禁止
- c キャフタ条約の締結
- d 東トルキスタン一帯を新疆と命名

問2 下線部(2)の内容として適当なものは何か。

- a 粟2石
- b 収穫の50%
- c 所有面積に比例する稅額
- d 土地の肥瘦に比例する稅額

問3 下線部(3)の稅制の献策者は誰か。

- a 司馬炎
- b 張居正
- c 王安石
- d 楊炎

問4 下線部(4)の銀納開始とされる時期はいつか。

- a 15世紀後半
- b 16世紀前半
- c 16世紀後半
- d 17世紀前半

問5 下線部(5)の農民のうち、大土地所有者の土地を借りて耕作する小作農家の呼称は何か。

- a 甲首戸
- b 佃戸
- c 奴婢
- d 部曲

D

征服王朝であった清朝(後金)は、北方の遊牧民と長城内の農耕民とを分けて統治する二重統治体制⁽¹⁾を採った。長城内の漢族居住地域には、内閣大学士、軍機大臣などを筆頭とする中央官僚制と並んで、巡撫、総督などの地方官僚システムを敷いたが、長城の外部・周辺の蒙古、青海、チベット、新疆などの地域⁽²⁾には別の機構を置いた。その制度の当初に遡ると、第2代皇帝の(3)が内蒙古地区を平定した時に設けられた蒙古衙門がその起源とされ、(4)年理藩院と改称された。その官庁には、長官の尚書を筆頭に、左右の侍郎が置かれ、原則として満州族がその任に就いた。清はこの中央官庁から各地に大臣を派遣して監督したが、周辺の各地は原則として自治が許され、それぞれの地域の首長の統治、宗教⁽⁵⁾などの存続が許された。この官庁の事務内容には、朝貢、封爵、会盟、駅伝、交易などがあり、初期にはロシアとの交易などの交渉もここで取り扱われたとされる。

問1 下線部(1)の二重統治の先例として知られる王朝を次から選びなさい。

- a 北魏 b 隋 c 唐 d 遼

問2 下線部(2)の地域の総称を何と呼ぶか。

- a 直轄地 b 藩部 c 属国 d 朝貢国

問3 空欄(3)に入る人名は何か。

- a ホンタイジ b 順治帝 c オゴタイ=ハン
d 李元昊

問4 空欄(4)に適切な年を次から1つ選びなさい。

- a 1636 b 1638 c 1644 d 1673

問5 下線部(5)のような政策は一般に羈縻政策と呼ばれるが、唐の時期、この趣旨で設けられた機関を次から選びなさい。

- a 節度使 b 北面官 c 御史台 d 都護府

3

以下の文章を読んで、問1、問2に答えなさい。

古代都市ローマ、ローマ教皇座を経て統一イタリアの首都となったローマには、古代から現代にいたるまで数々の歴史の記憶がぎざまれている。

ローマの中央駅テルミニの名は、近く(1)帝の浴場に由来するとされる。(1)はドミナトゥスを開始した皇帝である。

テルミニ駅^(A)から、リソルジメントで活躍したカヴール^(B)の名を冠した通りを200メートルほど南西に進むと、サンタ・マリア・マジョーレ聖堂の威容が目にはいる。これは、(2)年に開催されたエフェソス公会議におけるマリアの「神の母(テオトコス)」としての聖性の認定を受け、最初に聖母マリアに捧げられて創建された聖堂である。エフェソス公会議では(3)の総大司教ネストリウスが主張するイエスの神性と人性の分離を異端として排除した。この(4)とも呼ばれたネストリウス派はマリアを「キリストの母(クリストコス)」としていた。

カヴール通りをさらに進むと、古代都市ローマの中心地であったフォルム^(C)(フォロ・ロマーノ)と、それを分断するフォリ・インペリアーリ^(D)通りにつきあたる。フォルムには貴重な古代の遺構が数多く残っているが、ムッソリーニ政権下で、この歴史の宝庫ともいえるフォルムの一部を完全に取り壊して建設されたのが、フォリ・インペリアーリ通りである。(5)帝の時代に完成したコロッセウムと統一イタリアの中心地ヴェネツィア広場を結ぶこの通りでムッソリーニは繰り返し軍事パレードを開催し、かつてのローマ帝国の威光を纏^{まと}おうとした。ヒトラーもベルリン・ローマ枢軸成立翌年の(6)年にフォリ・インペリアーリ通りでムッソリーニとともにパレードを行っている。

フォルムには初代皇帝(7)が起工したコンコルディア神殿など数多くの神殿や公共施設の遺構があるが、その一つウェヌスとローマ神殿は、帝国各地を巡って長城を築くなど属州の発展に努めた(8)帝が、意図的にギリシア神殿に忠実に倣って建造させたものである。

フォルム西端に位置するカンピドリオの丘には古代ローマの最高神であったユピテルとユノーの神殿が立っていた。この丘は中世以降も元老院が建造されるなどローマの政治の中心地でありつづけた。古代ローマを讃えたイタリア＝ルネサ

ンス初期の詩人(9)は1341年にカンピドリオで桂冠詩人の榮譽を付与されている。このカンピドリオの中央広場は(10)礼拝堂壁画を描いたミケランジェロが設計したが、その楕円形の広場は最初のバロック的公共空間とされる。その中央に立つブロンズのマルクス＝アウレリウス帝騎馬像は、キリスト教を初めて公認した(11)帝と中世を通じて信じられていたために溶解を免れた。古代のブロンズ像はほとんどの場合、後世に大砲などに鑄造し直されたのである。

カンピドリオ広場前の階段を下ると右手にヴェネツィア広場がある。この広場を睥睨^{へいげい}しているのが巨大なヴィットーリオ＝エマヌエーレ 2世記念堂である。

ヴェネツィア広場から西に向かうとすぐ右手にイエズス会の母教会であるジェズ聖堂がある。造営に出資したのはトリエント公会議^(F)を主催した教皇(12)の親族である。ローマの代表的なバロック聖堂である。

ジェズ聖堂からヴィットーリオ・エマヌエーレ通りをさらに西に500メートルほど進んで南に入ると、古代にはドミティアヌス帝が造らせた競技場であった広大なナヴォーナ広場に着く。そこから西の細い路地に入ると間もなく庶民的なカンポ・デ・フィオーリ広場にでる。その中央にあるのが地動説と(13)を主張して火刑となったジョルダナーノ＝ブルーノの像である。彼はまさにこの場所で焚刑に処された。ガリレイが同じく地動説を唱えて(14)を宣告されたのはその33年後のことである。

問1 空欄(1～14)に入るもっとも適切なものを選択肢(a～e)から1つ選びなさい。

- (1) a ディオクレティアヌス b テオドシウス
c コンスタンティヌス d ウァレリアヌス
e ハドリアヌス
- (2) a 325 b 330 c 395 d 410 e 431
- (3) a コンスタンティノーブル b アンティオキア
c アレクサンドリア d エルサレム e カルダゴ
- (4) a 回教 b 祆教 c 儒教 d 道教 e 景教

- (5) a ネルヴァ b ウァレリアヌス c テイトゥス
d マクシミアヌス e トラヤヌス
- (6) a 1935 b 1936 c 1937 d 1938 e 1939
- (7) a カエサル b オクタウィアヌス c アントニヌス
d ポンペイウス e レピドゥス
- (8) a ネロ b ネルヴァ c トラヤヌス
d ハドリアヌス e アントニヌス=ピウス
- (9) a ラブレール b ボッカチオ c ペトラルカ
d マキャベリ e ブラマンテ
- (10) a メディチ家 b ロザリオ c サンタ=マリア
d スクロヴェーニ e システイナ
- (11) a コンスタンティヌス b テオドシウス
c ユスティニアヌス d マクシミアヌス e ホノリウス
- (12) a パウルス3世 b シクトゥス4世
c ユリウス2世 d インノケンティウス3世
e ボニファティウス3世
- (13) a 進化論 b 経験論 c 懐疑論 d 無神論
e 汎神論
- (14) a 火刑 b 流刑 c 磔刑 d 財産刑 e 終身刑

問2 下線部(A～G)に関する問(1～7)に答えなさい。

(1) 下線部(A)に関する文(a～d)のうち、誤っているものを1つ選びなさい。

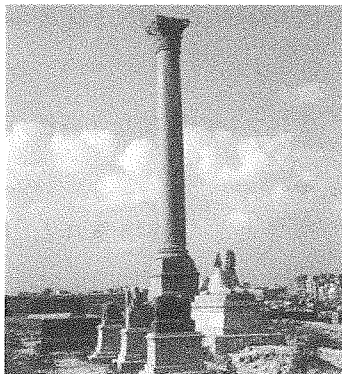
- a 2人の正帝と2人の副帝による四帝分治制を導入し、軍事組織を強化した。
- b 属州統治の再編、税制の整備、インフレの抑制など各種の改革をおし進めた。
- c この名称は、公文書の皇帝の称号として使用された「われらの主(dominus noster)」に由来する。
- d ペルシア風の宮廷儀礼を排除し、キリスト教やミトラ教など新興宗教を擁護した。

(2) 下線部(B)に関する文(a～d)のうち、誤っているものを1つ選びなさい。

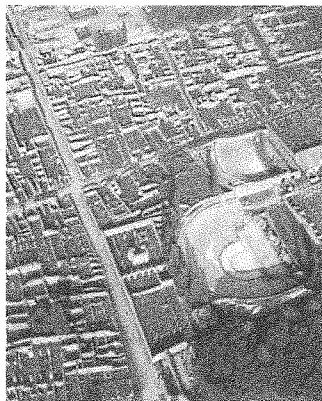
- a サルデーニャ王国の主導下でイタリアを統一することを成功させた。
- b サルデーニャ王国の首相であった他、海軍大臣や蔵相も兼任してサルデーニャ王国の近代化を図った。
- c マッツイーニらの共和主義に対抗し、穏健な立憲主義の確立を目指した。
- d サルデーニャ王国の農家出身で、農業改良にも携わった。

(3) 下線部(C)に相当する写真としてもっとも適切なものを選択肢(a～e)から1つ選びなさい。

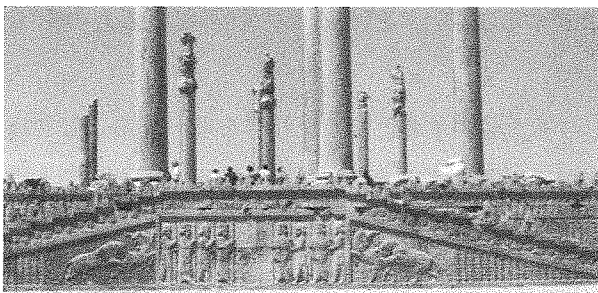
a



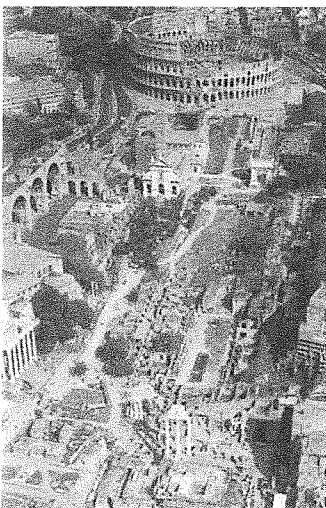
b



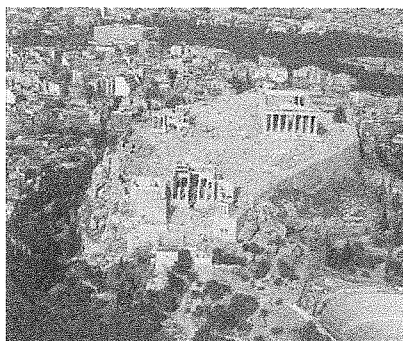
c



d



e



- (4) 下線部(D)が当初属していた政党を選択肢(a～e)から1つ選びなさい。
- a 共産党 b 労働党 c 社会党 d 共和党 e 自由党
- (5) 下線部(E)に関する文(a～d)のうち、誤っているものを1つ選びなさい。
- a イタリア国王となる前はサルデーニャ王であった。
b サヴォイア家がサルデーニャ王家であった。
c 父のカルロ・アルベルトは自由主義憲法を制定した。
d サルデーニャ王国の都はミラノであった。
- (6) 下線部(F)に属していない人物を選択肢(a～e)から1つ選びなさい。
- a フェルビースト b フランシスコ＝ザビエル
c マテオ＝リッチ d アダム＝シャル e コペルニクス
- (7) 下線部(G)ともっとも関係ないものを選択肢(a～e)から1つ選びなさい。
- a ベラスケス b レンブラント
c ヴェルサイユ宮殿 d ファン＝ダイク e ブージェ

問6 問5の人物の名から国名をとった国は、地図のどの記号のところにあたるか。

- a ル b ワ c タ d レ e ネ

問7 1813年に独立宣言するが失敗し、1821年に独立を達成したあとも、自由派と保守派の争いが絶えず、分離・独立運動や列強の干渉により、国土の半分以上を失い、1910～17年に革命がおこった国はどこか。

- a アルゼンチン b キューバ c チリ d ブラジル
e メキシコ

問8 問7の国は、地図のどの記号のところにあたるか。

- a ハ b ニ c カ d ヨ e ツ

問9 1903年にコロンビアからアメリカの援助で分離独立し、アメリカの強い影響下に置かれた国はどこか。

- a キューバ b ジャマイカ c ドミニカ d パナマ
e プエルトリコ

問10 問9の国は、地図のどの記号のところにあたるか。

- a イ b ロ c ハ d チ e ヌ

問11 ハイチの独立は黒人が主導権を握ったが、これはラテンアメリカでは例外的現象だった。たいていの場合、どういう人たちが独立運動の主導権を握っていたか。

- a インディオ b カウディーリョ c クリオーリョ
d ムラート e メステイーン

問12 ラテンアメリカに対してアメリカ合衆国は多大な関心を抱き、ラテンアメリカの独立に対するヨーロッパの干渉を排除する目的で、1823年に大統領の宣言が行われた。この大統領は誰か。

- a ジャクソン b セオドア＝ローズヴェルト c タフト
d マッキンリー e モンロー



19世紀半ばのラテンアメリカ
(ただし問9, 10の国の国境は20世紀初頭の独立時のもの)

設問2 アメリカ合衆国の国土拡大に関する次の文章を読んで、空欄(1～13)に入るもっとも適切なものを、選択肢(a～e)から1つ選びなさい。

合衆国は独立後、西部に向かって国土を拡大していった。これを西漸運動とい

う。まず、大西洋岸の独立13州とほぼ匹敵する面積をもつミシシッピ川以東のルイジアナを、1783年の(1)条約で(2)から獲得した。西部地域は開拓者に安く払い下げられたので、多くの人々が西部に進出した。その後、合衆国は、1803年に(3)からミシシッピ川以西のルイジアナを購入し、1818年に(4)からカナダの南部地域(現在のノースダコタとミネソタにまたがる地域)を獲得した。翌1819年にはスペインから(5)を購入した。その結果、国土は(1)条約当時に承認された領土の約二倍の面積となった。さらに、1845年には独立を宣言していた(6)を併合し、翌1846年には、19世紀初頭の(7)との戦争以後、その国との共同領有となっていたオレゴンを、土地紛争を機会に分割し、獲得した。そして1846~48年のある国との戦争に勝って、(8)を獲得した。こうして19世紀半ばには、アメリカ合衆国は大西洋から太平洋にまたがる巨大な国家となった。

19世紀半ば以降、合衆国の西部開拓はスピードを増した。それには、1848年に(8)で金鉱が発見され、翌1849年には、全世界から移民が殺到して、人口が爆発的に増えた影響が大きい。また、南北戦争中の1862年にリンカン大統領が出した(9)や、1869年に開通した(10)は、西部開拓のスピードを速めた。こうして、(11)年頃にはフロンティアは消滅した。

合衆国の領土拡大は、同時に、先住民(インディアン)を追放してその土地を奪取する過程でもあった。たとえば、1830年代に(12)大統領が出したインディアン強制移住法は、先住民をミシシッピ川以西のルイジアナに追放するものであり、移住の途中で病気や飢餓により多くの死者が出る過酷な政策となった。先住民を「保留地」という名の荒地に追放し、白人とほとんど接触させない政策がとられたのである。スー族をはじめとする先住民の抵抗は、南北戦争後しだいに制圧され、「フロンティアの消滅」と同時に、先住民の組織的抵抗は終わった。

アメリカ大陸での国土拡大が終わると、合衆国の関心は海外に向かった。伝統的に関心の深いラテンアメリカに対して、合衆国の歴代の大統領は積極的な態度で外交を進め、合衆国の利益を追求した。また、遠隔地域への関心も深め、とくに(13)大統領は、積極的な帝国主義政策を推進して、ハワイを併合し、スペインとの戦いの戦果としてフィリピン・グアム等を獲得した。

- (1) a ウィーン b ジュネーヴ c パリ d ユトレヒト
e ロンドン
- (2) a イギリス b スペイン c フランス d メキシコ
e ロシア
- (3) a イギリス b オランダ c スペイン d フランス
e メキシコ
- (4) a イギリス b スペイン c フランス d メキシコ
e ロシア
- (5) a カリフォルニア b キューバ c テキサス
d ニューメキシコ e フロリダ
- (6) a アラスカ b アリゾナ c キューバ d テキサス
e フロリダ
- (7) a イギリス b スペイン c フランス d メキシコ
e ロシア
- (8) a アラスカ b カリフォルニア c キューバ d テキサス
e フロリダ
- (9) a シェアクロッパー制 b ジム=クロウ制 c 奴隷解放宣言
d ホームステッド法 e マニフェスト=デスティニー
- (10) a 大陸横断鉄道 b 海底電信ケーブル c パナマ運河
d 無線電信装置 e モールス信号
- (11) a 1870 b 1880 c 1890 d 1900 e 1910
- (12) a グラント b ジャクソン c ジェファソン
d ジェファソン=デヴィス e ジョンソン
- (13) a クーリッジ b ジョン=ヘイ c セオドア=ローズヴェルト
d タフト e マッキンリー

